

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	熊本職業訓練支援センター実習場	階数	地上2F	
建設地	熊本県合志市須屋2505-3	構造	S造	
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	78人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,000時間/年	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2014年6月11日	
敷地面積	2750.0(仮想敷地) m ²	作成者		
建築面積	1,655 m ²	確認日	-	
延床面積	2,999 m ²	確認者	-	

1 CASBEE評価結果

建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.0

■BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	-
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	-
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	-
C	★	劣る	0.5未満	-

■ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率

93%

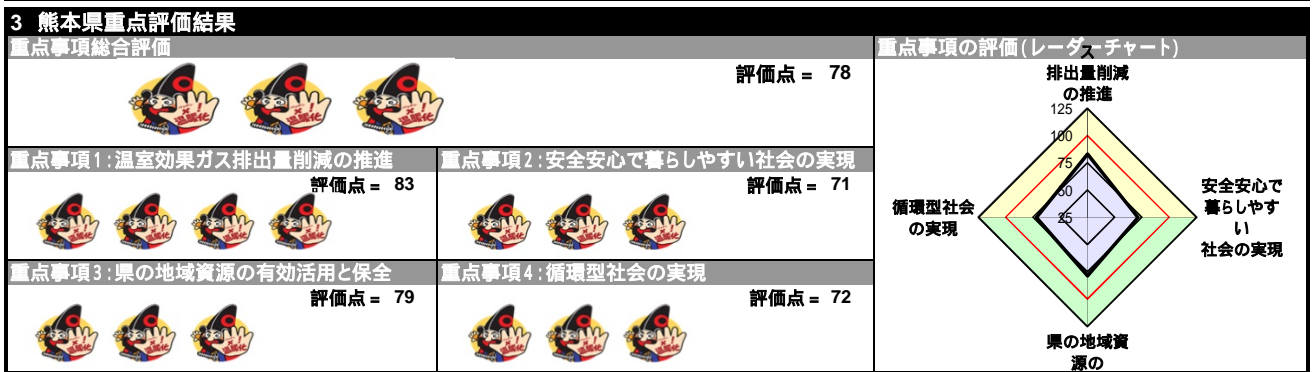
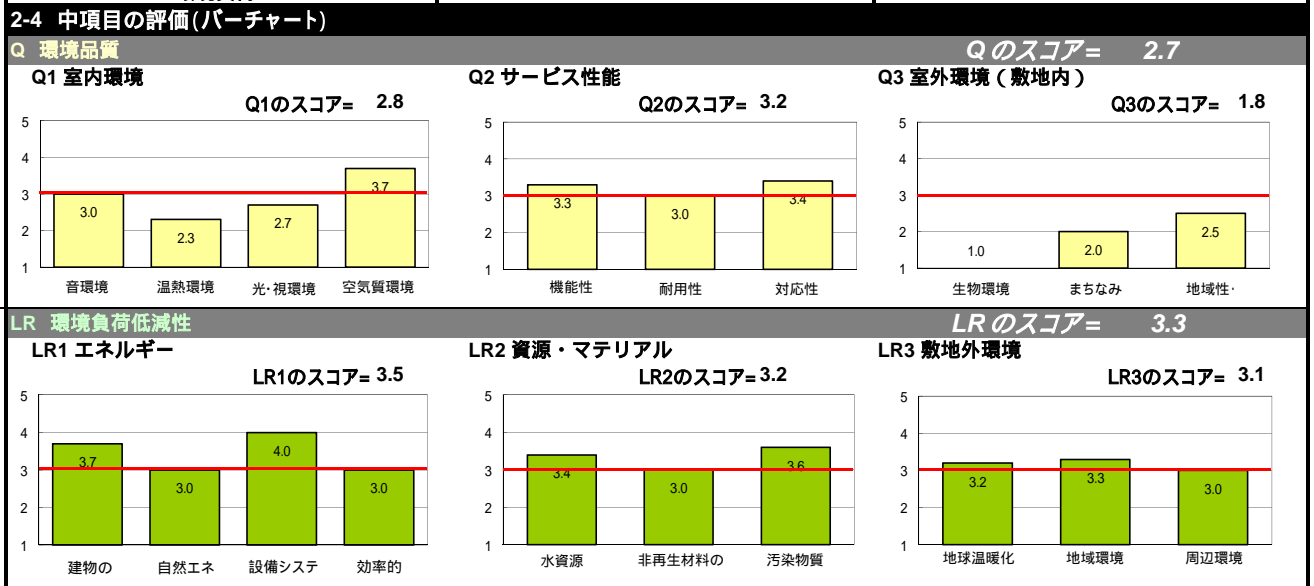
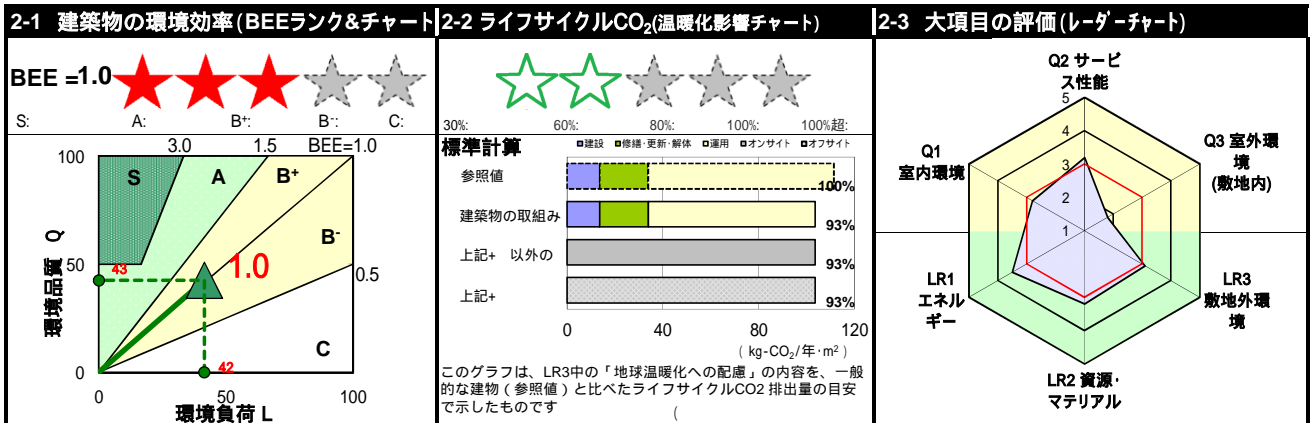
2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点																						
	78																						
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>重点事項</th> <th>評価点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</td> <td style="text-align: center;">83.3</td> </tr> <tr> <td>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</td> <td style="text-align: center;">71.2</td> </tr> <tr> <td>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</td> <td style="text-align: center;">78.5</td> </tr> <tr> <td>【重点事項4】 循環型社会の実現</td> <td style="text-align: center;">72.0</td> </tr> </tbody> </table>	重点事項	評価点	【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.3	【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2	【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	78.5	【重点事項4】 循環型社会の実現	72.0	<p>熊本県重点評価基準</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>判定値(評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値(評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
重点事項	評価点																						
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.3																						
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	71.2																						
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	78.5																						
【重点事項4】 循環型社会の実現	72.0																						
判定値(評価点)	ランク表示																						
100点以上																							
80点以上100点未満																							
60点以上80点未満																							
40点以上60点未満																							
40点未満																							

CASBEE® 熊本 《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。
 使用評価マニュアル：CASBEE 熊本《新築》2010年改訂版Ver.2 (BPU/BEI対応) 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本職業訓練支援センター実習場	階数	地上2F
建設地	熊本県合志市須屋2505-3	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	78 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年9月 予定	評価の実施日	2014年6月11日
敷地面積	2750.0(仮想敷地) m ²	作成者	-
建築面積	1,655 m ²	確認日	-
延床面積	2,999 m ²	確認者	-



CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
熊本職業訓練支援センター実習場建替工事

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応)

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei\

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.40					2.8
1 音環境		3.0	0.15	-	-	-	-	3.0
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		3.0	0.20	-	-	-	-	
2 温熱環境		2.3	0.35	-	-	-	-	2.3
2.1 室温制御		3.1	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能	断熱材強化、Low-eガラス採用など外皮性能を上げている	3.6	0.25	-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 空調方式		2.0	0.30	-	-	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	-	-	-	-	2.7
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	昼光率2.5%以上	5.0	0.60	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		1.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		1.0	1.00	-	-	-	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	F をほぼ全面的に採用	4.0	1.00	-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	-	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上	5.0	0.33	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	全館禁煙としている	5.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.2
1 機能性		3.3	0.40	-	-	-	-	3.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性	1人当たりのスペースが9㎡以上	4.0	0.33	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている	4.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	天井高:2.9m以上	5.0	0.33	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計において、取組みが標準以上	4.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能の確保において、取組みが標準以上	4.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31	-	-	-	-	3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	天井:PB:30年、壁:PB:30年、床:塩ビ:30年	5.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:塩ビライニング:B、汚水、雑排水:塩ビ:B、Eは不使用	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新				-	-	-	-
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	-
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.3未満	4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-	-
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制		BPIm0.92	3.7	0.30	-	-	3.7
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化		BEIm0.90	4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(ERRによる評価)		#VALUE!	4.0		-	-	-
集合住宅の評価			3.0		-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、節水型便器、自動水栓を採用	4.0	0.40	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	-
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.21	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み		躯体+LGS+仕上げとし、躯体と仕上材が容易に分別可能 再利用できるユニット部材としてO Aフロアを採用	5.0	0.25	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-	-
1	消火剤		-	-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材等を使用していない	5.0	0.50	-	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCo2 93%	3.2	0.33	-	-	3.2
2 地域環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2.1 大気汚染防止		燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.3	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	-
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

主要な実習場は天井高が5 m以上ある大空間とした為、可能な限り開口部を大きく設け、通風・採光に配慮した快適な空間となる様に計画した。屋上には太陽光パネル基礎を設ける事で、将来、環境負荷低減・省エネとなる様に配慮した。又、既存建物や周辺環境に調和する色彩・デザインとした。

Q1 室内環境

断熱材を強化し、Low-eガラスを採用するなど外皮性能を上げ、室内の温熱環境に配慮している。また、F 建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。

Q2 サービス性能

天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。内外装共防汚性に配慮した材料を使用するなど、維持管理に配慮している。また、階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。

Q3 室外環境（敷地内）

視線を遮る様な樹木を配置せず、防犯性に配慮している。

LR1 エネルギー

断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。高効率空調機、H f 蛍光灯を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。

LR2 資源・マテリアル

自動水栓や節水型便器などの省水型機器を用い水資源を保護している。断熱材はグラスウールを採用し、発泡剤を用いた断熱材を使用しないなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。また、O Aフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。

LR3 敷地外環境

広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。

その他

-

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本職業訓練支援センター実習場建替工事

評価ソフト: CASBEE-NCb_2010_kmt2011(v3.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		77.7
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
温室効果ガス排出量削減の推進				83.3	0.40	33.32
Q1-2.1.3	外皮性能	3.6	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	1.0	0.05			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	3.7	0.15			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1 3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
安全安心で暮らしやすい社会の実現				71.2	0.20	14.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	4.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
県の地域資源の有効活用と保全				78.5	0.20	15.70
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
循環型社会の実現				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

各重点事項(~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数